

ソフトデータとハードデータの相互関係から見た景気実態の構造的理解の研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

阿部 廉 Abe Yasushi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード : ソフトデータ分析 (各種アンケート、SNS テキスト分析等)・

ハードデータ (統計指標)・時差相関・期待形成と心理的反応・政策判断と情報発信

研究の概要

SDGs 目標 8 : 働きがいも経済成長も

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

本研究は、ソフトデータとハードデータの相互関係から景気実態を構造的に理解することを目的とする。GDP や鉱工業生産などの統計的に整備されたハードデータは政策判断の基盤となる一方、生活者の心理や期待を反映する景気ウォッチャー調査や生活意識調査といったソフトデータは、物価変動や景気局面を先取りする可能性を持つ。本研究では、ソフトデータの時系列的特性に着目し、消費者物価指数 (CPI) との時差相関分析を通じて、街角景気と生活意識調査が示す異なる相関方向と先行性を検証する。さらに、SNS 分析による「世間の風」の可視化を補完的に用い、政策当局の情報収集・発信の在り方を再考する。これにより、景気認識の多層性を明らかにし、柔軟かつ市民感覚に即した政策設計への示唆を導出する。

右図 経済政策決定プロセスの構造整理 (情報源・政策判断・外部的影響)

1. 情報収集フェーズ

① ハードデータ群
：従来型経済指標データ
消費者物価指数 (CPI/コア CPI)
GDP 成長率 (実質・名目)
失業率/有効求人倍率
賃金統計 (毎月勤労統計)
企業物価指数 (CGPI)
家計調査 (消費支出・所得)

② ソフトデータ群

：声の情報 (アンケート・ヒアリング)
企業の声 (日銀短観：業況判断 DI・設備投資計画)
地方の声 (さくらレポート：地域景気の実感)
消費者の声 (生活意識調査：物価・景気の体感)
景気ウォッチャー調査 (街角景気)

：オルタナティブデータ群 (非伝統的指標)

POS データ (消費動向の即時把握)
クレジットカード利用額の推移
交通量/電力使用量 (活動量の代理指標)
モバイル位置情報 (人流・地域活性度)

SNS・検索トレンド (消費者心理)、期待インフレ率など心理的指標?

①②の情報を統合し、情勢判断と政策シナリオを構築

2. 情勢判断フェーズ

- ・現状分析と先行き見通し
- ・リスク要因の整理 (海外情勢、為替、原油価格など)
- ・政策対応の選択肢提示 (利上げ・据え置き・緩和)
- ・委員個別の見通し (物価・成長率・政策金利)

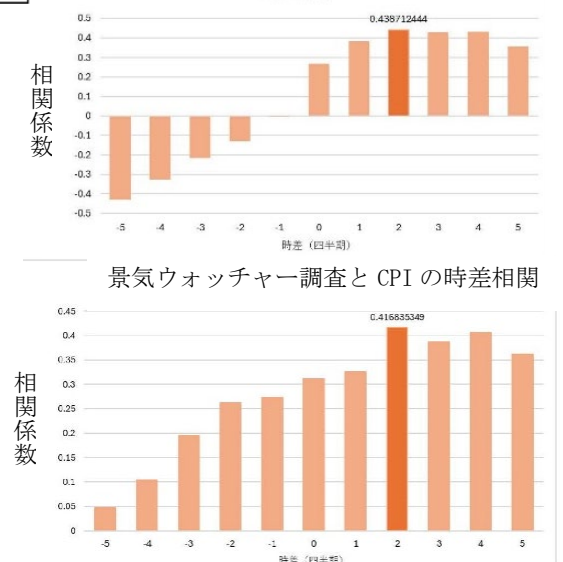
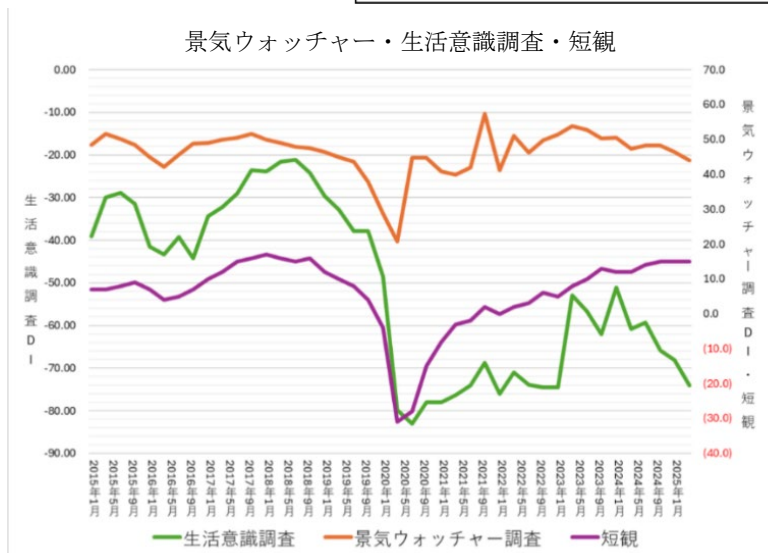
3. 外部的影響 (政策決定に横から作用)

- ・政府・与党からの発言や方針
- ・各種政策との整合性要求
- ・選挙前の景気刺激への期待

4. 政策決定フェーズ

- ・情勢判断を基に議論・合意形成
- ・経済政策の決定

生活意識と景気ウォッチャー調査の時差相関



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】・ソフトデータとハードデータの相関分析を通じ、生活者感覚と統計指標の乖離を可視化。

・政策判断や企業戦略に直結する「実感経済」の把握方法を提示。

【産業界・自治体へのアピール】・物価や景気変動に対する市民心理を早期に捉え、需要予測や価格戦略に活用可。

【協力可能事項】・産業界・自治体向けの説明会や研修での知見共有

【協力希望事項】・政策立案や地域振興に関する共同研究・実証プロジェクト